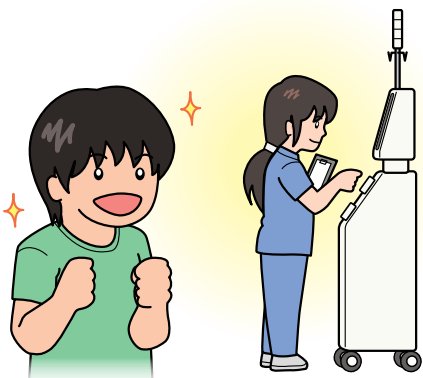


優秀賞（一般部門） 中久保光則

ぼくのお母さんはすごい人！

ぼくのお母さんは、臨床工学技士りんしんしやうこうがくぎしです。病院の機械を使つて治療を助けている人です。

お母さんは、みんなが休みのお正月もゴールデンウィークも仕事に行きます。お母さんの働く病院にはおしっこが出ない病気の人が「透析とうせき」という治療にくるので、日曜日以外は仕事に行きます。夜に治療にくる人もいるので、夜勤もあります。病院の機械は臨床工学技士がいないと動かせないので、臨床工学技士は治療に大事な人です。お母さんがいなくてさみしいと思うことも時々あるけど、大変な仕事をしていることを知つたので、これからも頑張つて病気の人の治療をしてほしいと思いました。それに、お父さんやお姉ちゃんたちがいるので応援していきたいです。



ぼくのお母さんは、お仕事紹介のイベントで臨床工学技士を紹介しました。イベントでは臨床工学技士のことや病院の機械のことを詳しく説明していました。イベントに来ていた人たちは、

「臨床工学技士つてすごいね！かっこいい！こんな職業もあるんだ！」

と言っていました。お医者さんや看護師かんどし・薬剤師やくざいしのことは知っているのに、臨床工学技士を知っている人がほとんどいないことを知り、なんでみんな知らないのかなと不思議に思いました。ぼくは、少しずついいから臨床工学技士のことをみんなに知ってほしいと思いました。次のイベントに友達を誘いたいです。

「お母さんの職業は何？」と聞かれたら、臨床工学技士と答えても知っている人は少ないし、「何それ？」と言われてしまうと思います。それでもぼくは、「臨床工学技士は、病院の機械を使つて治療を助けている人で、ぼくのお母さんはすごいんだよ！」と教えてあげます。

